

題字揮毫・故 瀬島龍三氏

### 第 21 号

公益財団法人 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会

〒105-0014 港区芝2-5-19  
TAビル4階

電話 03 (5730) 0421  
FAX 03 (5730) 0422

<http://homepage2.nifty.com/ireikyuu>

振替口座 00140-6-334930

編集人 飯田正能

発行人 柚木文夫

印刷所 ヨシダ印刷株式会社

### 目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 桃花雑記                  | 1  |
| 大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭のご案内    | 2  |
| 新公益財団法人発足             | 3  |
| この素晴らしい国日本を守ろう        | 4  |
| あ、悲惨、惨の極「3月10日と3月11日」 | 6  |
| 遺烈                    | 9  |
| 協議会参加団体の紹介「全国ソロモン会」   | 13 |
| 事務局からの報告等             | 14 |
| 協議会参加各団体の本年度慰霊行事予定    | 15 |

## 桃花雑記

三月三日は桃の節句（雛祭り）である。五節句の一つに挙げられている。五節句は一年間の五つの節句のことで、人日（じんじつ・一月七日）、上巳（じょうし・三月三日）、端午（たんご・五月五日）、七夕（しちせき・七月七日）、重陽（ちようよう・九月九日）を言う。



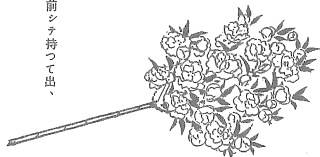
謡曲『西王母』後シテ（西王母）



桃の枝

造花にて作る。前シテ持つて出、ワキへ捧げる。

盆箱を置いた盆の上に、桃花と桃實を盛つたもの。後ツレ掛けて出、後にシテうけとり、ワキへ捧げる。



謡曲『西王母』の桃の実と枝

桃は古代より神聖視されてきた。艶やかな花はもちろんのこと、豊潤なその実は仙女を想わせるものがあるのであらう。中国では、桃は古来貴重な果実で、花は辟邪、つまり魔を払う呪力

### 桃の実

があり、果実は不老長寿の薬と言われてきた。また、桃源郷は中国の理想の地でもあった。我が国には、遣唐使によって唐から持ち帰られ、当時としては珍しい渡来果実で、梅とともに天平人に寵愛された。また、中国では道教の祭祀に用いられた神聖な果実とされ、我が国にも、邪馬壹國の昔に伝来し、卑彌呼は道教の祭祀を司る巫女であったのではないかと推論する学者もいる。最近の、奈良・纏向遺跡の発掘現場で二千七百余个の大量の桃の実が出土し、この遺跡が『魏志倭人傳』に書かれた卑彌呼の宮殿跡にほぼ間違いない、というのである。つまり、女王卑彌呼は「鬼道に事え、能く衆を惑わす」とあるが、この「鬼道」とは当時中国で勃興した道教による祭祀をいい、道教では特に神前に桃の実を沢山供えたことから、

卑彌呼もそのような祭祀を司っていたのではないかと、いうのである。古代中国では、三皇五帝の昔より、西王母の伝説があった。西王母とは、中国に古くから信仰されていた仙女をいい、姓は楊、名は回。周の穆王が西に巡狩して崑崙に遊んだ折、西王母に会い、帰るのを忘れたという。また、漢の武帝が長生を願っていた際、西王母は天上から舞い降りて、仙桃七顆を与えたという。この伝説（支那伝説の一、唐物語）が我が国に伝えられて、世阿弥元清作能『西王母』という名曲が生まれた。即ちその曲趣は、古今稀なる泰平の御代を迎え、君臣一同列座してこの聖代を寿いでいるところに、端麗なる一女性（仙女）が現れ、三千年に一度花咲き実を結ぶという桃花を、銀の鉢に載せて帝に献じ、更にその桃の実を捧げ、春風に和しつづ舞を舞い、いよいよ君

が代の千秋万歳を寿ぐという、祝言隨一のめでたく美しい曲である。

我が国には古来、桜を神聖視し、『古事記』にも、桜は木花佐久夜毘賣の御神木とされている。桜の清明美に花した照る道に出で立つをとめ」と詠

対し、桃の艶麗美、いずれ劣らぬ美の極致とも言うべきか。

なお、『萬葉集』にも、大友家持の歌として「春の苑くれないにほふ桃の花した照る道に出で立つをとめ」と詠

### 大東亜戦争全戦没者合同慰靈祭のご案内

当協議会は、当協議会参加諸団体と共に、平成二十三年年度の「大東亜戦争全戦没者合同慰靈祭」を左記のとおり執り行います。

記

一 時期 平成二十三年七月九日(土)

二 場所 靖國神社

三 次第

① 式典・昇殿参拝 十二時～ 拜殿・御本殿

② 直会 十三時半～ 靖国会館

四 参加費

① 式典・昇殿参拝(玉串料) 二〇〇〇円

② 直会 五〇〇〇円

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様には、本誌同封の払込取扱票による参加費ご納入をもって、ご参加申込みにごさせていただきます。

会員以外の方は、当協議会事務局までお問い合わせください。

〒105-0014 東京都港区芝2-5-19 TAビル4階

(公財)大東亜戦争全戦没者慰靈団体協議会事務局

電話 03-5730-0421

FAX 03-5730-0422

まれている(巻第十九・四一九番)から、奈良時代には既に渡来して、庭園に植栽されていたものと思われる。

中国では、日本の旧正月に当たる春節に、桃の枝と金柑の実付きの枝を飾って新年を寿ぐ風習があるが、この桃は同じバラ科のハナモモで、花の觀賞を目的に改良された品種である。我が国でも古くから多くの品種が栽培されており、主な品種として、桃色八重の「矢口」、白色八重の「寒白」、紅白咲き分け八重の「源平」、花弁が細く八重咲きの「菊桃」などがあり、また枝垂れ品種には、白色八重の「残雪枝垂れ」、紅色八重の「相模枝垂れ」、紅白咲き分け八重の「源平枝垂れ」などがあつて庭園用の花木として珍重されている。

ところで、去る3月3日、偕行社では、新公益法人たる「公益財団法人」に認定され(2月1日認定書交付、同日新法人登記)て初の臨時評議員会が開催された。図らずも桃の節句の当日となった。筆者も理事として出席したが、この日、新偕行社の執行役員体制も承認され、①戦没者及び自衛隊殉職者等の慰靈顕彰、②安全保障等に関する研究と提言、③自衛隊に対する必要な協力、④並びに定期刊行誌「偕行」等により防衛基盤の強化拡充に寄与し、

もって我が国の平和と福祉に関する国政の健全な運営の確保に資することを目的とする、新公益財団法人として、偕行社は再出発をすることとなり、議事を終わって、会費制によるささやかな祝宴が催された。

その席で、筆者はふと、桃の節句とも関連して、彼の古典に有名な「桃園の誓い」を想起した。「桃園の誓い」とは、言うまでもなく、彼の古典小説『三国志』の初頭に出てくる、若き日の劉備(玄德)、関羽(雲長)、張飛(翼徳)の三壮士が神明に誓ったという義盟のことである。その日の朝、三青年は、漢の末裔と称する劉備の隠れ住む楼桑村近くの桃園、その真つ盛り

の桃の花の下に薙を敷き、祭壇を設けて義兄弟、同志として、義盟を結び、固く神明に誓い、世を正し、民を救うために立ち上がった。約二千年前の古代中国、後漢の代の大陸を舞台に、群雄争覇の壮大なドラマがここに始まったのである。

桃の靈力にあやかつて、新公益財団法人偕行社が、「英靈に敬意を、日本に誇りを」の旗印の下、会員の総力を結集して、新しい目的に向かつて躍進することを願ひ、かつ誓いを新たにしたいものである。

(飯田正能記)

### 新公益法人

# 『公益財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会』

### 発 足

一 「公益財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会」の発足  
当協議会は、平成20年12月に施行された公益法人認定法等の規定に基づき、

昨平成22年12月9日、内閣府公益法人等認定委員会に移行認定申請書を提出しました。  
その後同委員会の審査を経て、本年3月22日、公益財団法人に認定され、4月1日に登記を完了し、「公益財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会」として再発足いたしました。

- ① 戦没者崇敬に関する思想の普及
- ② 大東亜戦争における全戦没者の慰霊のための行事の実施
- ③ この法人と趣意を同じくする慰霊諸団体が行う事業への協力
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

三 新公益法人の役員等

代表理事 山本 卓眞  
理事 齋須 重一  
理事 柚木 文夫  
理事 若木 利博  
理事 赤木 衛  
理事 浦山 長人  
理事 小田 邦博  
理事 庄嶋 徹  
理事 富田 定幸  
理事 藤田 幸生  
理事 山口 浄秀  
理事 阿部 軍喜  
理事 内田 十允  
理事 秋上 眞一  
理事 新井 文央  
評議員 新井 光雄

「主たる事務所」  
東京都港区に置く。  
「目的」  
戦没者崇敬に関する思想の昂揚と大東亜戦争における全戦没者の慰霊事業の永続を図り、もって国政の健全な運営の確保に資することを目的とする。  
「事業」

評議員

評議員

評議員

評議員

評議員

評議員 稲垣 雅子  
評議員 内田益次郎  
評議員 小田原健児  
評議員 倉谷三男四郎  
評議員 菅原 道熙  
評議員 杉山 蕃  
評議員 夏川 和也  
評議員 野口 清秀  
評議員 福田 一彌  
評議員 藤原 博

(理事長 赤木 衛)  
(NPO法人) 国民保護協力会  
(会長 富澤作太郎)  
震洋会 (会長 上田惠之助)  
全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊奉賛会 (会長 糟谷 勝美)  
全国近歩一会  
全国甲飛会  
全ビルマ会 (会長 菅野 廉一)  
全国ソロモン会 (会長 安田藤一郎)  
(公財) 太平洋戦争戦没者慰霊協会 (理事長 秋上 眞一)  
筑後地区偕行会 (会長 鈴木 英樹)  
(公財) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 (会長 宮下 創平)  
東京都郷友会 (会長 矢部 廣武)  
ソ聯強制抑留戦友会・東京ヤゴダ会 (会長 茨木 治人)  
特攻殉国の碑保存会 (事務局 長 西村 金造)  
(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会 (会長 山本 卓眞)  
豊橋歩兵第十八聯隊戦友会 (代表 伊奈作一郎)  
姫路偕行会 (会長 小林 繁)  
福井県偕行会 (会長 浅野 一行)  
宮崎県偕行会 (会長 川野 周平)  
山口県偕行会 (会長 坂本 強)  
予科練雄飛会 (会長 堺 周一)  
陸士五十三期生会 (代表幹事 西宮 正泰)  
陸士第五十七期同期生会 (代表 大中福太郎)

## 公益財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会正会員団体一覧 (4月1日現在)

山本 卓眞 (公財) 海原会 (会長 藤野 雅之)  
齋須 重一 (英霊にこたえる会)  
柚木 文夫 (会 長 中條 高德)  
若木 利博 (会 長 富樫 利男)  
赤木 衛 (代表 鹿兒島偕行会 (会長 矢崎 晃)  
浦山 長人 (代 表 神奈川県偕行会 (会長 荒井 和彦)  
小田 邦博 (会 長 旧戦友連 (会長代行 石橋 聰)  
庄嶋 徹 (会 長 近畿偕行会 (会長 田川 康吾)  
富田 定幸 (会 長 熊本偕行会 (会長 美作 博)  
藤田 幸生 (会 長 熊本歩兵第二二五聯隊戦友会  
山口 浄秀 (会 長 群馬偕行会 (会長 新津 保義)  
阿部 軍喜 (会 長 興亜観音を守る会  
内田 十允 (会 長 埼玉偕行会 (会長 小山内昭三)  
秋上 眞一 (会 長 佐賀県偕行会 (会長 江口 浩)  
新井 文央 (会 長 (NPO法人) JYMA

## この素晴らしい国 日本を守ろう

すぎやまこういち  
(作曲家)



今、政治の世

界、メディアの世界を見ておられますと、本当に日本だけの特殊な現象だと思えますが、日本の中に反日の日本人が相当数存在しているのです。

私は、こうした実態を説明するとき「今の日本は、日本軍と反日軍との内戦状態にある」という言い方をしますが、現在の日本の危機的な状況を理解していただくには、その方が分かりやすいと思って、敢えてこうした表現にしています。

その意図するところを申し上げますと、諸外国を見た場合、例えば、アメリカの政治の世界でも、時の政権に対して断固反対の行動を起こす政党や政治家、民衆がいる。しかし、政策に反対する勢力であっても、彼らは決して反米ではないですね。つまり、アメリカ

カの世界、あるいはメディアの世界では、大議論を戦わす勢力の争いであつたとしても、どちらも決して反米ではなく、基本的には愛国者のせめぎ合いなのです。こうした構図は、一部の国を除いては、ごく普通のことだと思います。

ところが、驚くべきことに、日本では、愛国心のない反国家勢力の、いわゆる「反日」の日本人が大きな勢力を持つていて、政治やメディアをはじめ教育界等あらゆる世界に存在しています。これは日本だけの異常な状態で、反日の彼らが最終的に目指しているものは、日本という国の解体です。こうした勢力から何とか日本を守るために、我々普通の国民である「日本軍」が奮起しなければならぬということを常々訴えております。

今、我々が早急になすべきことは、こうした日本の現状をしつかりと見極めて、政治の世界でも日本のことを本当に憂えて、毅然と行動する日本軍を応援するということなのです。

それから、新聞・メディアでも反日軍のメディアはなるべく購読しない。反日軍が何を考え、何をしようとしているかを知るためには必要かもしれないが、とにかく反日軍を応援してはならないと思います。

### 日本解体工作とは

近年、こうした反日勢力の動向の中で、非常に危惧していることがあります。それは、「日本解放第二期工作要綱」というもので、内容は日本転覆を図る計画書なのですが、非常に緻密な計画がなされていて、こうしてこうすれば日本を転覆できるという手順が詳細に書かれています。

この文書の出典は諸説あつて明らかになっていませんが、約40年前に書かれたものであるにもかかわらず、現実に日本で起こっていることと余りにも符合しています。これを見逃すことはできません。不気味でさえあります。

注目すべきは、この要綱について、国会議員はもちろんのこと、評論家などの有識者やマスコミの多くが、その存在を熟知していると言われていることです。

「日本解放第二期工作要綱」の一番最初の第一期目標には、日中国交正常化ということが書かれています。

昭和47年、日中国交正常化が樹立して、これで第一期目標が達成。そこからは、世論造成のために、どのように政界やメディアに侵食していくかということが書かれていて、政治家・文化人・マスコミ・芸能人等をどんどん

クルートせよとあります。そして、第二期目標は、民主連合政府の形成なんです。これは一昨年の政権交代で目標をなし遂げたところに来ています。

これがそのまま続いていくと、第三期の目標として掲げているのが、日本人民民主共和国の樹立です。日本のすべての伝統を壊して、その根幹を絶つというのが最終目標で、日本の精神的支柱を完全につぶした上で、日本を自分たちの傘下にしようというのが最終の狙いです。

### 日本を守るために！

この要綱を見てみると、第二期目標の民主連合政府樹立というところまで着々と進んでいるので、何とかその先を防がなければと奮起していますが、その一番の対応策として前回の衆議院選挙では、残念ながら落選してしまつた国想う政治家の方達には、是非とも国政の場に戻っていただかなければならない。現在、私はその実現に向け「国想う在野議員の会」(会長元衆議院議員中山成彬氏・たちあがれ日本/HP: <http://kunomou.com>)という会に参加して、日本再生という目的達成のために奮闘しているところです。

二つ目の対応策として考えられるの

は、インターネットです。「日本解放第二期工作要綱」で、唯一計算に漏れているのが、このインターネットで、さすがに40年以上前には、こうしたものが世界に普及するとは予想していませんかったと思います。

近年、インターネットに触れている若い世代が、日本のおかしなところに徐々に気付き始めています。その一つの表れとして、靖國神社に参拝する人達が増えている。特に若者が目立ってきていることにも繋がっていると確信します。

この要綱にあるような謀略に対抗して、歯止めをかける有効な手立ての一つとなり得るのが、インターネットでしょう。私は、このインターネットの力も借りて何とかこの国難を回避したいと念願しています。

### 靖國神社は日本の柱

日本は今や中国の属国のようになってきていますが、それが更に進んで植民地になるのだけは、絶対に阻止しなければならぬ。そして、早急にこの現状から立ち直る運動を推進していかなければいけないと思っています。

そのために掲げる対応策としては、やはり国を想う心、国を守ろうという心、若い世代を中心に全ての国民に

持つていただくことが必要です。更に大切なことは、国のために命を捨てて戦った人を敬い顕彰するという精神、これをなくしたら国は守れません。世界中どの国でも、その国を守るために命をかけた人は尊敬されるし、顕彰されている。だからアメリカにもアーリントン墓地があるのですが、日本の政治家がアーリントン墓地に参拝して靖國神社に参拝しないのは、とんでもないことです。

今、靖國神社は中国の外交カードの一つになっていきます。これを厳として撥ね付けるために、逆に靖國神社に日本の閣僚や政治家が参拝することをこちらのカードにしなければいけない。日本の政治家は、何のために政治家になったんだ。「国を守るために」という意識が余りにも薄い政治家が多過ぎます。そうした意味からも本場に靖國神社の存在が重要で、我々に日本の国を守る意識を取り戻させ、守らなければならぬものを教示してくれる日本人の精神的な聖域であると思います。

それから、国を支えるものとして、経済はもちろん大切です。国民が生活に窮するようでは困りますが、それは全て国家の安全保障があつてのことだと思えます。いくら経済活動でお金が儲かっても、日本の国家がなくなつて

しまつたら全てがゼロになってしまいます。経済の問題にしても、教育や社会保障など国の抱える問題はいろいろありますが、その全ては国家の安全保障が前提であるということを、しっかりと認識しなければいけないと思います。その辺の道理が全く抜けてしまつてい

る。毎回選挙の度に経済問題が争点の中心になっていますが、その度に私は、「各政党や候補者の話は、お金の話ばかりじゃないか」と言つて怒るんです。お金の話ばかりで、これで国が成り立つのかと思う。

更に忘れてならないのは、人権侵害救済法案や永住外国人への地方参政権付与、これには絶対に反対です。国を滅ぼすもどです。選択的夫婦別姓制も叫ばれています。この法案の次には、戸籍制度廃止法というものが出来来ます。旧ソ連が共産革命で真っ先にやったことが家族解体です。それが共産革命の第一歩ですから、これらの法案の成立は非常に恐ろしいことだと思います。

### 日本再生のために

これから日本再生のため一番大きなカギは、お金お金という状態から日本国民が脱して、「我々は誇りある日

本国民なんだ」「日本という素晴らしい国を未来に向けて何とか守つていこう」という精神的支柱を立てること、これが立てられるか否かが再生のカギでしょうね。精神的な支柱をしっかりと打ち立てることができれば、プライオリティー、優先順位としてお金がトップには来ない。日本の国をどうするか、これがやはり一番にあつて、その上でお金の話ならいいでしょう。

その精神的な支柱の中心になるものは、靖國神社に祀られている英霊の御心はもちろんのこと、神道や仏教、武士道等の精神性、茶道や華道をはじめ日本古来の伝統文化などいろいろありますけれども、日本の歴史と伝統に育まれた独自の精神性と固有の文化を、優れた価値あるものとして国民が再認識していく、その上でそれを守り伝えていくという気概を持つことが、日本再生の一番のカギだと考えております。「注・本文は、編集部がすぎやまこういち氏に面接取材した要約である。」

(靖國神社社報「やすくに」平成23年1月1日発行・第666号より転載)

あゝ悲惨、惨の極  
「3月10日と3月11日」

3月10日(木)、あの夜の東京大空襲から66年の歳月が経過した。この日午前10時から都立横網町公園(墨田区横網2丁目・関東大震災時の旧陸軍被服廠跡)内の「東京都慰霊堂」において、財団法人東京都慰霊協会主催による、都内戦災遭難者及び関東大震災遭難者の「春季慰霊大法要」がしめやかに執り行われた。

高円宮久子妃殿下と御長女承子女王殿下のご臨席を仰ぎ、石原慎太郎都知



東京都慰霊堂



退出される高円宮久子妃殿下・承子女王殿下

事を始め都や区の代表者、被災者や遭難者の代表者約350名の参列者のほか、数百名の一般参拝者が堂の内外に溢れた。読経の後、石原都知事は「恒久平和と永続的な安全を実現するために、我々は一層努力するとともに、戦争の悲惨さを語り継ぎ、平和な世界を次の世代に引き継いで行かなければならぬ」と追悼の辞を述べた。この日は、「東京都平和の日」(平成2年制定)でもある。その後、参列者及び一般参拝者の献花・焼香は午後に至るまで延々と続いた。また、この日は、慰霊堂後方の納骨堂が開扉され、身元不明の犠牲者の冥福を祈る献花・焼香者の列も

延々と続いていた。更に、公園内の「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」も、この日は開扉され、水を抜かれた泉の潜橋を渡って碑内の犠牲者名簿(同日現在、第1巻〜第34巻まで、登録者数7万9503柱)を拝観することができたが、身内の名前が記載された巻の前で掌を合わせる人の姿も多く見受けられた。そして今なお、行方不明者は2〜3万名に上るといふ。

また、この日は同公園内にある「東京都復興記念館」内で通常の展示品のほか「東京空襲資料展」や「戦災写真パネル特別展」が開催され、多くの写真や絵画、遺品、記録等が展示されていたが、特に今回は、反骨の写真家とも言われた戦災当時の警視庁警察官石川光陽氏が、大空襲直後に撮影し、戦

後GHQからの提出命令も拒否してネガを守り通したという、夥しい残酷な焼死体や遺体収容の写真は、鬼哭・妖気の迫る感があり、目を覆わしめるものがあつた。

東京都慰霊協会の資料(戦災焼死者改葬事業始末記)によると、3月10日の東京大空襲の死者約10万のうち身元不明者は約90%に及び、しかも身元不明者総数8万9430人(当時の35区内)のうち男女の識別可能な遺体は3万817人に過ぎず、残りの5万8613人は識別不能の遺体で、約60%は男女の識別すらできない、黒焦げの死体や焼け崩れてゴミと化した死体が山をなしたといふ。これらの不明遺体は、被災直後に都内数十箇所の公園等に仮埋葬され、その後数年をかけて調査、焼骨して、この慰霊堂に納骨されたといふ。なお、東京都慰霊堂には、大正12年(1923年)9月1日の関東大震災による都(府)内の遭難死者中身元不明者約5万8千柱と3月10日の東京大空襲を始め、約115回に及んだ都(府)内空襲による戦災死者中約10万5千柱の身元不明者の遺骨が、本堂後ろに

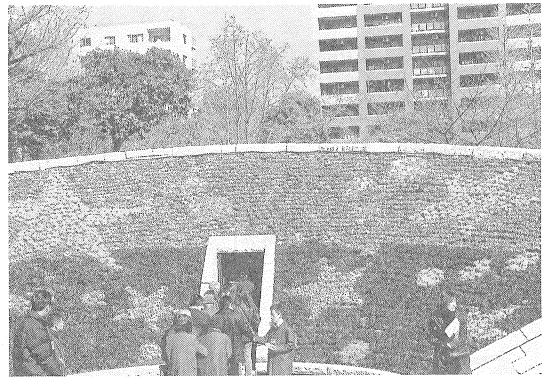


納骨堂

後GHQからの提出命令も拒否してネガを守り通したという、夥しい残酷な焼死体や遺体収容の写真は、鬼哭・妖気の迫る感があり、目を覆わしめるものがあつた。

併設の納骨堂（三重の塔様式）に納められ、毎年3月10日と9月1日の春季及び秋季の大法要が東京都慰霊協会の主催で厳粛かつ盛大に営まれている。

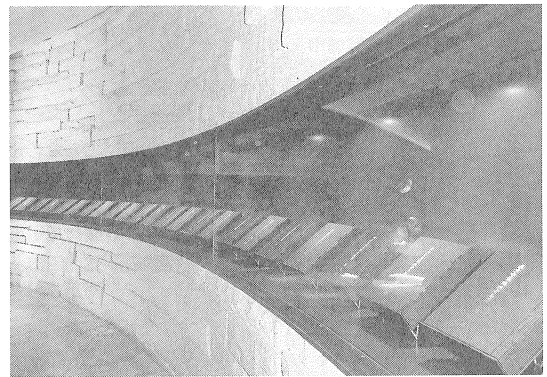
明けて3月11日（金）、この日筆者は正午から偕行社で開催された「特攻隊戦没者慰霊顕彰会」の、公益財団法人認定後初の定時評議員会に出席し、終わって靖國神社に向かう途中14時46分、今回の東北関東巨大地震に遭遇した。東京は震度5強の大揺れであった。靖國神社境内は九段地区の避難場所となっており、周辺のオフィス街から社員達が集団で続々詰めかけていた。近くの九段会館講堂の天井が崩落し、卒



東京大空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑

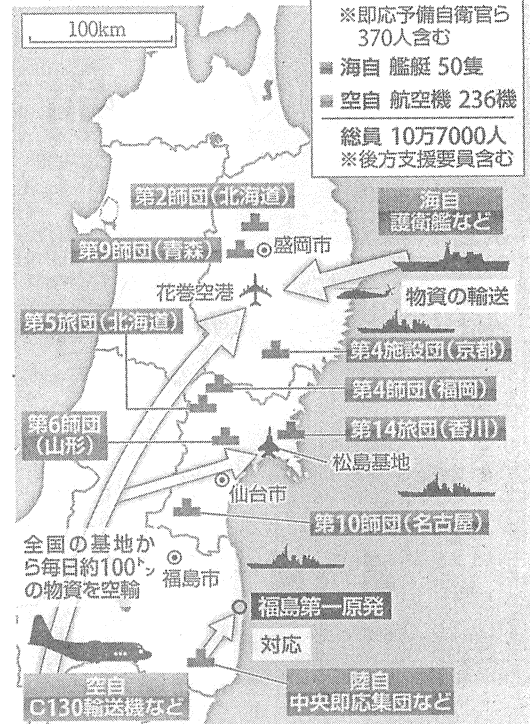
業式中の観光専門学校生等30数名が負傷し、病院に搬送された重傷者のうち2名が死亡した。交通、通信は麻痺し、情報は混乱した。その日深夜に帰宅できた筆者は幸運な方であった。

千年に1度というM9.0の巨大地震と最大津波高29m余、内陸部への距離5キロにも達する大津波に襲われた東北・関東太平洋岸の被災地は南北500キロに及び、加うるに福島第一原発の被災による放射能の被害は2000キロの広範囲にわたっている。巨大地震発生から18日目、3月29日午前10時現在で警察庁がまとめた被災状況は、死者1万1063人、行方不明者1万



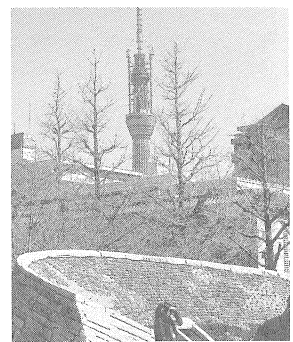
碑内の空襲犠牲者名簿

●全国から東北地方に集結した陸海空の部隊



(2011年3月29日夕刊読売新聞より)

7258人、負傷者2778人、倒壊家屋15万388戸、避難者約24万5000人で、この数は益々増えると予想される。これらの被災地への救援活動は全国各地から、また米国始め世界の20数箇国から寄せられているが、中でも自衛隊は、予備自衛官6千名を含む

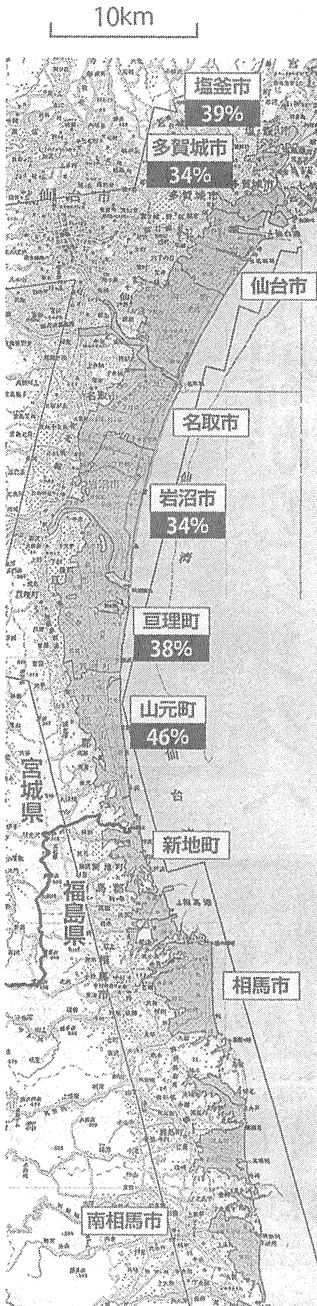


碑の背後に遠望される東京スカイツリー

10万7千名態勢で陸に海に空に、最も困難とされている捜索、救助、遺体搬送、道路・港湾復旧、架橋、救援物資輸送等多岐の任務に当たっている。中でも原発事故への対処は命懸けの活動である。消防や原発職員の活動と共に頭の下がる思いである。しかも、自衛隊員や消防隊員等災害救助に当たっている隊員の中にも家族や同僚が死亡及び行方不明となっている者も多く、自衛隊だけでも隊員の死亡2名、行方不明1名、家族の死者は約160名に達しているという。彼等は自らの被災や悲しみにも耐え、使命感に燃えて、未曾有の国難とも言える大災害に当たり、

### 東日本巨大地震の津波で市街地の3割以上が浸水した市町村

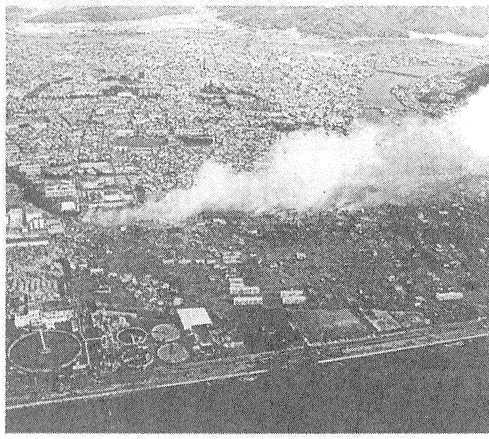
■ 浸水範囲  
 国土地理院の浸水範囲概況図をもとに作成



(女川町よりも北の市町村)

- 岩手県 野田村 ..... 32%
- 大槌町 ..... 50%
- 陸前高田市 32%
- 宮城県 気仙沼市 ..... 35%
- 南三陸町 ..... 48%

● 津波で破壊されたJR仙石線の東名駅(12日、宮城県東松島市で) = 大久保志司撮影  
 ◎ 津波で大きな被害を受けた石巻市内(12日、本社機から) = 上田尚紀撮影



身命を賭して被災者・被災地の救援と安全確保のために活動しているのである。

更にその一方で、災害救援活動にのみ注力しているわけにはいかない。このような時なればこそ、テロ対策、領

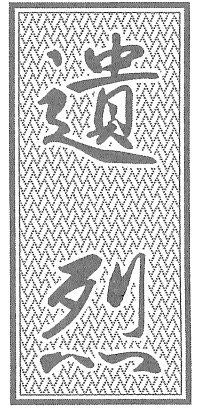
海侵犯等国防対策なども一層重要である。それにしても、初動における政府の危機管理体制の混乱振りには目に余るものがある。この困難に際し、未だに拳

道筋さえ策定できず、右往左往の有様である。政治主導を唱え、有能な官僚の知恵と組織を疎外し、内閣や各省の政務三役等で議論している暇はない。災害や困難に際しての先人の知恵と教訓に学びつつ、一刻も早く国家的対策

を取らなければならない。

(飯田正能記)





表題は、当協議会の参加団体である「特定非営利活動法人JYMA日本青年遺骨収集集団」（平成20年度に改名、ただし、登記上は「特定非営利活動法人ジェイワイエムエイ」と表示、英文表記は「Japan Youth Memorial Association」略称「NPOJYMA」）の機関紙（月刊）の題字であるが、その第130号（平成23年1月1日発行）によれば、昨平成22年12月2日〜17日に行われた政府主催第三次硫黄島遺骨収集派遣隊に、同法人からも1名が参加したが、同派遣隊により、島の南西に位置する摺鉢山の砲台付近から百二十九柱、島の中心にある滑走路の西端付近から百五十四柱、計二百八十三柱の御遺骨をお迎えすることができた。

は、去る平成23年1月26日〜2月15日に行われた政府主催第四次硫黄島戦没者遺骨収容派遣は、菅総理の特命により来年度から実施される硫黄島における大規模遺骨収容に向けての試金石として、JYMAからは例年ない18名の多数が参加して実施され、四百八十一柱をお迎えすることができた。その結果、平成22年度に実施された第一次から第四次までの派遣で合計八百二十二柱の御遺骨を本土にお迎えすることができ、2月15日には、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、遺骨引渡式が行われた。当日は、菅総理を始め松本防衛政務官、岡本厚生政務官、阿久津前厚生政務官など、多くの政府関係者が参列したとのことである。

なお、第四次硫黄島派遣のJYMA隊員は、次の18名である。  
先発隊（1月27日出発）  
遠藤 剛史 東海大学三年  
山際 嵩之 中央大学一年  
後発隊1班（1月28日出発）  
松井 聡 明治学院大学三年  
池田 祥子 社会人  
後発隊2班（2月3日出発）  
濱 修一（硫黄島御遺族） 社会人  
水野谷友一 国士館大学一年  
赤瀬 一紀 国士館大学一年  
白石 昇平 社会人

大西 利典 明治学院大学大学院  
富岡 賢一 国士館大学三年  
西口 和成 社会人  
秋山 弥彦 社会人  
河上 寛人 日本大学四年  
中山亜理沙フェリス女学院大学四年  
大塚 和美 社会人  
根本 祐介 自営業  
水上 大輔 社会人  
大野 義彦 靖國神社 神官  
以上

終戦だけしか書いてない教科書と、それに載っている白黒写真を数枚見るだけで、大東亜戦争の大変さを余り知ることができなかった。そこで、遺骨収容をする上で、現地でしか感じ取ることのできない思いを、家族や友達など多くの人に語っていきたいと思い、JYMAの遺骨収集に参加させていた。 岐阜県から入間第一ホテルまで、7時間かけてやっと着いた。今回は、私一人の派遣が決まり、初めての派遣だったので、不安と緊張で、JYMA代表としてしっかりとやっていけるか、とても心配だった。だが、今回厚労省の方にJYMA出身の方が見えると聞いて、気持ち少し楽になった。

### 集団埋葬地、英霊たちの姿

隊員 田中 雄也

私は、中学の頃から夢だった自衛官を目指すため、1年間浪人をし、来年（平成23年）の4月入隊が決まった。だが、自衛官になるに当たって硫黄島の英霊の方々がどのような状況、環境で戦い、日本を防衛したのか現地に歩き知るべきではないのかと思った。それと、今まで小、中、高校での大東亜戦争の授業では、ほとんどが開戦と

不安な気持ちの中、入間を離陸した。輸送機に揺られながら約3時間、小さな窓から見えた硫黄島が、思った以上に大きくてびっくりした。だがまだ、ここに一万三千柱もの遺骨が残されていると思うと、一柱でも多くお迎えたいと思った。11時を回った頃無事硫黄島に着陸した。輸送機から降りると同時に熱気と太陽の光が襲いかかってきた。12月なのにほぼ内地の夏と変わ

らない暑さだった。

翌日、後発隊の方と合流して天山慰霊碑に向かい、来島報告をした。午後からの島の見学に連れて行ってもらった。最初、栗林壕に向かい、壕の中に入ったが、中に進んで行くにつれてひどい湿気と熱気が襲いかかり、前に進むのがやっとだった。

壕の中の見学を終えて外に出た時の温度差に驚いたと同時に、閉ざされた場所から外に出られることがこれほど嬉しいと思ったことは初めてだった。戦闘中この暑さで壕の中から出られないと思うだけで、嫌になってくる。最後に摺鉢山に登り、見学を終えた。

第三次硫黄島派遣は、主に米国資料から発見された集団埋葬地の摺鉢山砲台近辺と、滑走路西端近辺の遺骨収集と調査だった。

硫黄島に来島して3日目に、遺骨収集が本格的に始まった。私が収容作業をした滑走路西端近辺は、地面が砂状態で、2千体が埋葬されたという所だった。作業行程は、2から3グループに分かれて御遺骨をお迎えする所と洗骨する所とに分かれた。最初は御遺骨が出てきたらどうしようかと手取ったが、とにかく1日でも早くお迎えしたいという気持ちで遺骨収容に臨んだ。作業を進めていくと、御遺骨が顔を

出した。だがほとんど、御遺骨の形状がはっきりとしておらず、どの部位なのかも見極めがつかなかった。一番悲しかったのは、ただ手に触れただけで、ポロポロと御遺骨が崩れていくことに、私は脱力感を覚えた。

全体をしてみると、ほとんどが、米軍の迷彩柄のポンチョ(カッパ)に包まれて埋葬されていた。遺骨収容してから後半、遺骨の洗骨作業から発骨の作業をさせていただき、洗骨の時は、御遺骨がバラバラで、お迎えした実感が余りなかったが、実際に自分の手で砂をかきわけて御遺骨をお迎えした時に、完全一体の御遺骨が収容できた。

それを見た時、65年前この状態で埋葬された英霊の方が目の前におられると思うと、生と死の狭間がこれなのだ実感した。65年ぶりに光を浴び、重い土砂の中から出ることのできた御遺骨は嬉しかったに違いない。作業が進むにつれて前半よりも形状がはっきりとした御遺骨が多くなってきた。その他の御遺骨の中には、頭骨のこめかみ辺りに銃弾が貫通した穴が開いている御遺骨や、頭骨の中からピストルの弾頭が出てきた御遺骨があった。それを見た時、自決したのだと気づき、このような御遺骨を目の当たりにするとは思ってもいなかった。

遺留品では、万年筆、水筒、印鑑が出てきた。印鑑では、身元が特定できた。さらに軍装品では、靴底、認識票、手榴弾、鉄兜が出てきた。

いつも通り作業をしていると、近くで米軍の50キロ爆弾が出てきた時は、身が凍りついた。爆弾は無事、陸自の方が処理して下さり、安心して作業を進めることができた。

12月14日の総理が見える前日に、内閣政務官がミーティングに見えて、将來は「平和な島」にしたいと言っておられた。だが私は、旧島民の方々が硫黄島に戻り住むことができて、はじめて「平和な島」になるのだと思う。

14日当日、12時半頃総理が見えて、遺骨収容を約10分行った。総理は遺族の方から話を伺ったり、収容した遺骨に手を合わせていた。その後、私たちは天山慰霊碑に向かい、総理、議員を含め全員で追悼式を行った。私は、雲のように真っ白な菊の花を持ち、追悼の言葉を聞き、献花をした。

人生ではじめての遺骨収容、硫黄島での生活だったが、今まで知らなかった事を多く学び、現地でしか感じ取れない気持ちを感じ取ることができた。これら学んだ事を周りの人に伝え、戦争への意識が風化しないためにも、後世に伝えていきたい。そして、自衛

官になったら、硫黄島のような悲劇が起らないよう、英霊に代わって、日本を守っていきたい。

最後になりましたが、今回お世話になった厚生労働省の皆様、日本遺族会の皆様、硫黄島協会の皆様、旧島民の会の皆様、小笠原村の皆様、オペレーターの皆様、陸上自衛隊の皆様、本当に有り難うございました。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。



【第四次硫黄島派遣報告文】

若い世代が今後に繋げていくために

隊長 中山 亜理沙  
(フェリス女学院大学四年)

平成23年1月26日から2月15日まで第四次硫黄島戦没者遺骨収容派遣が実施された。菅首相の特命により来年度からの硫黄島での大規模遺骨収容に向けての試金石として、今回JYMAからは18名の参加となった。初めてで慣れない厳しい環境の中、大人数での収集ではあったが、一人一人が一柱でも多くお迎えせねばという気持ちで団結して、一生懸命作業に向き合った。

第四次では四百八十一柱しかお迎えできず、収容累計は六百六十三柱である。また、平成22年度の硫黄島遺骨収容数は、八百二十二柱で、40年ぶりとなる柱数であった。戦後66年経っても、未だこんなに多くの英霊の方々が故郷に帰れずにいる。人は土に還ると言われるが、作業をしていると、多くの御遺骨が土と一体化しているのが見受けられる。現在も世界各地に何百万という英霊をお迎えできずにいるが、どれほどの御遺骨が劣化せずにまだ存在しているのかと考えると、忘れ去られていた英霊が積年の思いで本土に戻ることができた時、入間基地では千人近くの自衛隊員が敬礼してお迎えしており、引渡式には首相を始め多数の政府要人が参列した。国のため、家族のため、祖国の未来のため、命を投げ打って戦ってくれた方達を政府が積極的に動き帰還させるのは勿論だが、今の平和な日本を享受している私達もやるべき使命なのではないだろうか。今更と思うのではなく、早急な対応が望まれる。

遺骨収集の存在を知りきっかけとなった硫黄島に、学生最後の派遣で行けたことを感慨深く思います。これまでJYMA活動を通じ、経験して学んできたことを、改めて振り返り、最後の一柱をお迎えするまで続けていくことの重要性、伝えていくことを誓いました。今回の派遣では関係諸団体の皆様、ご迷惑をお掛けした団員一同に心から感謝の意を表して報告を終わらせていただきます。

祖父が戦死した硫黄島での遺骨収集

社会人 濱 修一

今回初めて参加した第四次硫黄島戦没者遺骨収集派遣は、自分自身を見つめ直す派遣でもあった。私は物心のついた頃から、母親や親類から祖父が硫黄島で亡くなっていることを幾度となく聞いており、その硫黄島で遺骨を収集できる機会を得られなかった。会うことが叶わなかった祖父にようやく近づけるといふ期待を込めて、硫黄島へ赴いた。入間基地からおよそ2時間、遙か彼方に思っていた硫黄島へは、実際に向かうとわずかな時間だった。島に降り立つと、強い風が吹いていた。風を受けながら島へ来たことを実感すると、それまで長い間、胸に抱えてきた祖父と硫黄島に対する思いが溢れてきた。そして、様々な想いを巡らせてきた硫黄島を自分の目で見られたことで、どこかすっきりとした気持ちになった。収集作業を行ったのは滑走路の西にある集団埋葬地。場所は前回より継続中の区域であったため、遺骨を探しため壕などを調査するという苦労は経験しなかった。だが、集団埋葬地での作業は、強い日差しを直接受け、海風に巻き上げられる砂埃に耐えながら埋葬地の土を掻き出す、体力を要するものだった。普段の生活とはかけ離れた作業だ。私の祖父は、鹿児島で商店を営んでいた頃、召集を受けて硫黄島へ来た。壕を掘るなど、慣れない苦しい任務が多かったのかと想像すると、自分の疲れが大したものには思えなくなってきた。一柱でも多くの遺骨を持ち帰りたいという今回の目標を、作業を続けていく中でより強く感じていった。派遣団の誰もがそのような想いを持って臨んでいたのだろう、今回の収集作業は四八一柱もの遺骨を収容しながら、予定を上回って終了を迎えた。作業がなくなった時間を含む、日々の自由時間をどう過ごすかは、それぞれに任されていた。私は硫黄島戦没者の遺族だが、普段の生活においては、

遺族同士が会う機会はずいぶん少ない。今回同じ宿舎に滞在していた硫黄島協会、日本遺族会の方々には、みな硫黄島戦没者の遺族だ。共に過ごす派遣期間中は近くにいることが当たり前のように思えてくるが、実際はとても貴重な時間であった。

そこで、自分以外の遺族の方々がどのような気持ちで遺骨収集に参加し、硫黄島へどのような想いを持ち続けているのか、できる限り話を伺うように心掛け、また自分が長い間抱えてきた気持ちも伝えた。ほとんどの方が私より上の世代ではあるが、気持ちはほぼ同じであると感じた。

強く願っているのは、収集を一刻も早く、最後の一柱まで行うこと。そして収集作業中には、出てくる遺骨がどれも家族のものではないかと、期待を寄せる。正に自分自身もそうだった。砂に埋まっていた遺骨が、どれも祖父の遺骨ではないかと思ひながら作業をしていたのだ。

硫黄島では、遺族の方々と同じ想いを共有できる大切な時間も過ごすことができた。多くの方々の遺骨を見ながら、この島で苦しみながら亡くなった祖父、辛い生活を強いられた祖母と、まだ幼かった母親のことを考えた。そして彼らのお陰で今の自分自身がある

ことを実感した。

今回、帰還した数多くの遺骨の中に祖父は含まれていなかった。もちろん現場で祖父の遺骨かどうかを判別する術はないが、そのように感じた。

次の遺骨収集では故郷の鹿児島へ持ち帰りたいと思う。しかし、次も帰る時に感じることは同じだろう。今回も祖父の遺骨は見つからなかった。自分が自分自身を次へとつなげてくれるように感じている。その気持ちをもち、遺骨収集への参加を続けたいと思う。



天山慰霊碑での追悼式にて

※産経新聞で遺骨収集がとりあげられ、当法人も取材を受け、記事となりましたので紹介します。

菅直人首相の肝煎りで差定した政府の遺骨収集特命チームが、先年秋以降、先の大戦の戦地・硫黄島で、旧日本兵の集団葬地とみられる場所の特定に成功し、徐々に遺骨収集のペースが活況に上り、関係者の高齢化、国民の無関心な山積する課題は、「国の責務」を強調する菅首相は、風をよびつらるるだろうか。



硫黄島の遺骨収集現場を訪れた菅直人首相 (右) =14日 (喜多由浩撮影)

### 「国の責務」首相が強い意志

遺骨収集は、長い月が過ぎた日本のシヤトルや、洞窟などを捜すための単身作業ではない。戦後65年、本土以外の戦没者は40万人中未帰還の遺骨は約14万4千体を数える。国は、今年3月米海軍、JVM(鎮守)と、戦後、遺族ら関係者の高齢化にもなると、有力な情報も限られ、昭和27年時から始まった国の収集業務は50年経った約3万6千体で、1度に下降線をたどり続け、数年前には7000体弱にまで落ち込んだ。

### 【戦没者遺骨収集】

政府の遺骨収集特命チームは菅首相の指示で、約2万2千人の日本軍将兵が戦死した約1万3千体の遺骨を未帰還とした硫黄島を念頭に、今年8月に発足した。「政治主導」を掲げ、菅首相側近の阿久津勝彦(当時防衛大臣)が中心となり、内閣府、厚生労働、防衛、外務の省が連携して参加している。従来(防務省が主)と大きく違う。

特命チームは、米国立公文書館の米軍資料から約2千体と約200体の遺骨があると考えられる集埋地(丸所)を特定、今年秋以降、3000体を追加する。遺骨の収集に成功した。過去数年同島での年間の収集数が「数十」にとどまっていたことを見れば、大きな成果と言っても過言ではない。同島で約30年にわたり遺骨収集を行ってきた硫黄島遺族会の永澤正(即会長)は、「米軍遺骨が新たな情報を得られたことに加え、国のリーダーである菅首相が強い意志を示したことが大きかった」と話す。

菅首相は、今年10月に同島の遺骨収集現場を視察し、「遺骨収集は国の責務」「遺骨一粒の砂まで確かめ、全力を尽くす」と約束した。菅首相の強い意志を示した硫黄島では先年度、特別特命として予算を大幅に増額、厚労省の職員を交代させ、収集業務を徹底した調査・収集を行うことになった。強い意志は、その「政治主導」の姿勢を示している。同島では、実際に相対多数の遺骨が検出されている。同島は「海外」での厳しい状況は「海外」でもない。菅首相は菅政権の派遣団を送り出しているNPO法人JYMA日本青年遺骨収集団の代表理事長は、菅首相の取り組に対しては「これは拉致問題のように内閣府に各省横断的な協力の体制を認める必要があり」と指摘する。

特命チームがその業務に乗り出すのか。菅首相に命をかけた菅首相の職務にどうなるのか。菅首相の職務にどうなるのか。菅首相の職務にどうなるのか。

### から分かる

民間参加で収集数急増も。小西理光(陸院議員)が現地の民の情報をネットワークしている。民間にも遺骨収集の道が開かれ、民間的な振換が行われた。昨秋、フーリンで活動を行うNPO法人「聖隷隊」(理事長

民間参加で収集数急増も。小西理光(陸院議員)が現地の民の情報をネットワークしている。民間にも遺骨収集の道が開かれ、民間的な振換が行われた。昨秋、フーリンで活動を行うNPO法人「聖隷隊」(理事長

民間参加で収集数急増も。小西理光(陸院議員)が現地の民の情報をネットワークしている。民間にも遺骨収集の道が開かれ、民間的な振換が行われた。昨秋、フーリンで活動を行うNPO法人「聖隷隊」(理事長

| 地域       | 戦没者数      |
|----------|-----------|
| 北朝鮮      | 21,000    |
| 中国本土     | 184,400   |
| 中国シンガポール | 6,910     |
| インド      | 5,090     |
| フィリピン    | 11,030    |
| インドネシア   | 142,230   |
| タイ       | 375,720   |
| その他      | 20,950    |
| 合計       | 1,442,200 |

| 地域       | 戦没者数      | 収集済み数     | 未収集数    |
|----------|-----------|-----------|---------|
| 北朝鮮      | 21,000    | 2,000     | 19,000  |
| 中国本土     | 184,400   | 174,350   | 10,050  |
| 中国シンガポール | 6,910     | 1,200     | 5,710   |
| インド      | 5,090     | 2,680     | 2,410   |
| フィリピン    | 11,030    | 8,720     | 2,310   |
| インドネシア   | 142,230   | 127,400   | 14,830  |
| タイ       | 375,720   | 312,000   | 63,720  |
| その他      | 20,950    | 17,180    | 3,770   |
| 合計       | 1,442,200 | 1,174,350 | 268,850 |

# 協議会参加団体の紹介

## ⑬ 全国ソロモン会

### 全国ソロモン会の活動等の概要について

全国ソロモン会  
会長 安田藤一郎(歩45)

#### 一 会の沿革

- ① 名称 全国ソロモン会
- ② 発足 昭和40年10月24日
- ③ 会長名

初代 神田 正種(第17軍司令官 陸軍中将・陸士23期)

二代 浜崎 積三(歩45第3大隊 長・陸士53期)

三代 勝股 治郎(歩29第11中隊 長・歩16大隊長・陸士51期)

会長代行 矢吹 朗(重砲4中隊 隊長・陸士54期)

四代 安田藤一郎(歩45聯隊本部 付、現任)

#### ④ 会員数

当初 2800名 現在 250名

#### 二 会の活動

ガダルカナル島、ブーゲンビル島をはじめとするソロモン諸島方面にお

る慰霊巡拝、ご遺骨調査・収集、生存者調査、国際親善活動、政府派遣団・日本遺族会への協力派遣、国内における清國神社・護国神社・寺院等での慰霊祭並びに慰霊法要を執行しております。

#### 三 会の今後の方針

引き続き現地での慰霊巡拝とご遺骨の調査活動を実施いたします。本年の試みは、JYMAと協同で若年有志隊員により編成するガ島自主派遣隊を現地へ派遣(昨年は偵察派遣を3回実施)、丸山道において未送還遺骨情報収集活動を実施する予定です。今後もご遺族はじめ若年有志隊員を多数募り、会の存続を図ることはもとより、調査・慰霊活動等を継続して実施する方針であります。

#### 四 今後の戦没者慰霊顕彰活動の在り方

会の運営・存続のためにも、如何なる会も若手有志隊員を募っていくことは必須であると考えます。自然消滅や解散を余儀なくされる前に、歴史系大手雑誌やホームページ等による告知、関係各位の人脈を動員して、有識者を獲得しなければ、各団体の慰霊顕彰活動が成立しなくなる恐れが、近年のうちに、遅かれ早かれ現出するものと思えます。厳しい世相の中、目下、当会もこれに鋭意努力しております。また、遺骨調査・収集事業に関しても、戦友・ご遺族世代が過酷な現地での活動に耐え得ない方々も出てきている中で、厚労省並びに日本遺族会に対しては、やる気のある若手有志も現地派遣に登用していくべき旨を、今から具申していくべきではないかと思考いたします。「現地へ行く人間がいなくなつた」調査・収集活動の終止符に



のダンドム島ウシアジョーニュー  
の碑慰霊会ソロモン全国

にしてはなりません。若手の人材育成には大変時間が掛かり、国内の慰霊祭執行にしても、現時点から活動のいろはを継承していくかねば、恒久的な活動は厳しく、予断を許さない状況であると進言いたします。

#### 五 平成23年度の事業計画

1月 ソロモン諸島国特命大使 Y. SATO 氏

来日、昼食会

1/2月 日本遺族会による未送還遺骨情報収集活動協力派遣

2月 ホームページの更新・整備

3月 ビスマーク・ソロモン諸島政府派遣遺骨帰還協力派遣

4月 ブーゲンビル島慰霊巡拝並びに調査派遣

5月 千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式参加

8月 全国戦没者追悼式参加

8月 全国ソロモン会戦没者並びに物故者慰霊法要執行

8月 ガ島丸山道未送還遺骨情報収集活動自主派遣

10月 ガダルカナル島慰霊巡拝

未定 清國神社遊就館 全国ソロモン会写真展

#### 六 新規会員募集のご案内

当会では、年齢、性別、戦友、遺族を問わず、広く新規会員の皆様を募集しております。現地への慰霊巡拝、調査派遣、慰霊祭・法要執行、会報の送付や親睦会等を行っております。ご興味がおありの方は、当会事務局あてにご連絡ください。

全国ソロモン会事務局電話 03-3841-5011

# 事務局からの報告等

一 平成22年度後期連絡会議の開催  
 当協議会では年2回、首都圏所在の当協議会参加団体による連絡会議を開催していますが、平成22年12月3日(金)、後期の会議を開催しました。会議の概要は、次のとおりです。

## 1 開催場所

偕行社・3階会議室

## 2 会議出席団体

海原会、英霊にこたえる会、神奈川県偕行会、旧戦友連、埼玉偕行会、全ビルマ会、太平洋戦争戦没者慰霊協会、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会、東京都郷友会、ソ聯強制抑留戦友会・東京ヤゴダ会、特攻隊戦没者慰霊顕彰会、陸士第五十七期同期生会、JYMA

## 3 主要協議事項

### ① 協議会の業務現況

- ア 合同慰霊祭の成果報告
- イ 新公益法人移行状況
- ウ 会員状況等
- エ 国立追悼施設建設反対活動状況
- オ 内閣総理大臣あて公開質問状の提出

カ 山谷えり子参院議員による内閣

総理大臣あて質問趣意書提出等

② 海外慰霊碑の現況と今後の対策

- ア 国立戦没者慰霊碑の状況
- イ 民間団体等建立海外慰霊碑の状況
- ウ 海外所在民間建立慰霊碑整備事業実施要領

当初、協議会が準備した資料(厚生労働省の文書を含む)を説明後に、参加団体から質問があり、その後意見交換が行われた。

特に海外慰霊碑の現状と今後の維持管理要領については、長年の地道な活動に基づく東京ヤゴダ会(略称)の活動方針及び活動状況について意見が開陳され、厳しい現状と課題について再認識させられた。

その後活発な自由討議が行われた。JYMAからは、「戦史検定は、戦没者慰霊及び崇敬を基本方針とし、その収益を慰霊碑建立及び慰霊顕彰の啓発に充当する」との説明の後に、第一回戦史検定の実施成果及び今後の検定についての協力依頼がなされた。

本件については、参加団体から、戦史検定と慰霊事業との関連付けについて、議論が伯仲した。

③ 戦没者慰霊に若い世代、新しい層を取り込む方策について(自由討議)

戦争を知らない世代への働き掛け、その問題点と実施要領について幅広い

観点から意見交換が行われた。

## 二 協議会の役員人事

11月4日付けで、監事1名が辞任され、1名が就任された。

ア 辞任監事―植田 弘氏

同氏は、当協議会発足以来監事

として、業務指導及び会計監査等当協議会の業務運営に親身のご指導をいただいた。

イ 就任監事―阿部 軍喜氏

## 三 協議会参加団体の活動等

① ソロモン平和慰霊公苑再整備計画への協力依頼

当協議会の正会員団体である(公財)太平洋戦争戦没者慰霊協会から、ソロモン平和慰霊公苑(ソロモン国ガダルカナル島ホニアラ市在・昭和55年10月完工)再整備計画及びその進捗状況について説明並びに協力依頼があった。

## 新入会員 (敬称略)

(平成22年12月1日)  
 平成23年2月28日)

## 【正会員】

全国ソロモン会  
 (会長 安田 藤一郎氏)  
 (別掲参照)

## 当協議会会員ご入会のご案内

当協議会は、心ある皆様の浄財によって運営されています。

戦没者慰霊事業の永続を希う多くの皆様の、当協議会会員ご加入を心からお待ち申し上げます。

皆様のご協力をお願いいたします。

会員の区分と年会費は次のとおりです。

一 賛助会員(本会の趣旨に賛同する個人)  
 年会費 三〇〇〇円

二 賛助特別会員(特別ご芳志の賛助会員)  
 年会費 五〇〇〇円

三 正会員(本会の趣旨に賛同する慰霊目的の法人・団体)  
 年会費 一〇〇〇〇円

四 特別会員(本会の趣旨に賛同する法人・団体)  
 年会費 五〇〇〇〇円

### 御見舞いと御悔み

平成23年3月11日、東北地方太平洋沖において発生した大地震、大津波、及びそれに伴う原発事故による未曾有の大災害で被害を被られた、当協議会会員の皆様に心から御見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い再起・復興を衷心より祈念申し上げます。

また、御家族や親族の方々を亡くされた会員の方々に深く御悔みを申し上げますとともに、行方不明の方々の御平安を心よりお祈り申し上げます。

平成23年4月1日  
(公財)大東亜戦争全戦没者慰霊  
団体協議会並びに全参加団体

### 会費納入のお願い

平成22年度会費(未納分)及び平成23年度の年会費納入にご協力をお願い申し上げます。  
なお、本会報同封の払込取扱票は、賛助会員年会費納入並びに合同慰霊祭参加申込み及び参加会費納入を兼ねておりますので、ご確認の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

### 会報「慰霊」第20号正誤表

次のおとり誤りがありましたので、謹んで訂正し、お詫び申し上げます。

(訂正箇所)  
15頁 2段目前から19行目以下  
誤「住所・氏名・電話番号他」  
正「〒441-3622愛知県田原市和知町下大道一三四―二  
河合武彦方(会長 糟谷勝美)  
電話(0531)381-0830」

### 協議会参加各団体の平成23年度慰霊行事予定(情報入手分のみ)

| (年月日)   | (時間)              | (慰霊行事名)                    | (場所)                    |
|---------|-------------------|----------------------------|-------------------------|
| 23・7・9  | 式典12時<br>直会13時30分 | 平成23年度大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭       | 靖國神社<br>靖國會館            |
| 23・4・4  | 12時<br>午前         | 予科練雄飛会慰霊祭<br>第44回予科練戦没者慰霊祭 | 靖國神社<br>陸自武器学校内・雄翔園二人像前 |
| 23・4・2  | 14時45分            | 第27回靖國神社の桜の花の下で「同期の桜」を歌う会  | 靖國神社大村                  |
| 23・8・15 | 9時                | 第36回全国戦没者慰霊大祭              | 益次郎像前<br>靖國神社           |

(年月日) 23・8・15 (時間) 10時30分

(時間) 12時15分

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(時間) 11時

(時間) 14時

(慰霊行事名) 第25回戦没者追悼中央国民集会(共催・日本会議) 靖國神社境内

(慰霊行事名) エラブカ東京都人会 九段会館

(慰霊行事名) エラブカ東京都人会総会・慰霊祭

(慰霊行事名) ラーダ旧日本人墓地再遺骨収集

(慰霊行事名) 小規模慰霊碑建設

(慰霊行事名) 万世特攻慰霊碑奉賛会主催

(慰霊行事名) 知寛特攻基地戦没者慰霊祭

(慰霊行事名) 鹿兒島県沖繩戦没者慰霊祭

(慰霊行事名) 鹿兒島県戦没者慰霊祭

(慰霊行事名) 鹿兒島県護国神社・護国神社奉賛会主催

(慰霊行事名) 鹿兒島県戦没者追悼式(鹿兒島県主催)

(慰霊行事名) 鹿兒島県戦没者墓地慰霊祭

(慰霊行事名) 鹿兒島県戦没者墓地慰霊祭

(慰霊行事名) 観桜慰霊祭

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者追悼式

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(慰霊行事名) 神奈川県戦没者慰霊堂

(年月日) (時間)

(慰靈行事名)

(場所)

(年月日) (時間)

(慰靈行事名)

(場所)

近畿借行会

23・4・29

昭和殉難者法務死追悼・年次法要(共催)

高野山奥の院

24・2・22

11時～11時40分

爆弾三勇士慰靈祭

山川招魂社境内

23・9・10

パール博士顕彰碑建立記念事業

京都霊山護国神社

23・5・30

12時30分～13時15分

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拜礼式

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

23・10・23

特攻勇士慰靈顕彰祭

大阪護国神社

23・9・10

12時45分～14時30分

23年度秋季慰靈祭

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

23・4・4

戦没馬慰靈祭

靖國神社

23・10・18

10時30分～11時

遺骨引き渡し式

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

23・4・7

靖國神社春季例大祭

靖國神社

23・9・23

14時～15時

平成23年度第45回特攻殉国の碑慰靈祭

長崎県川棚町新谷郷・特攻殉国の碑前庭

23・8・6

靖國神社春季例大祭

靖國神社

23・11・11

11時～12時

第33回特攻隊戦没者合同慰靈祭

世田谷山観音寺

23・15・19

靖國神社秋季例大祭

靖國神社

24・3・24

11時～12時

第60回特攻平和観音年次法要

世田谷山観音寺

23・9・9

特攻平和観音年次法要

世田谷山観音寺

23・9・23

14時～15時30分

第60回特攻平和観音年次法要

世田谷山観音寺

23・10・9

特攻隊戦没者合同慰靈祭

靖國神社

23・11・11

11時30分～15時

第55回音羽陸軍埋葬地慰靈祭

護国寺境内

23・8・4

佐賀県護国神社春季例大祭

県護国神社

23・4・4

4時～6時

宮崎市特攻隊戦没者慰靈祭

宮崎市

23・15・13

佐賀県護国神社みたま祭

県護国神社

23・4・4

4時～6時

都城地区特攻隊戦没者慰靈祭

都城陸軍墓地

23・11・3

佐賀県護国神社秋季例大祭

県護国神社

23・6・4

6時～10時

特別攻撃隊戦没者慰靈碑前

(陸軍墓地)

23・11・3

佐賀県自衛隊殉職者慰靈祭

県護国神社

23・6・4

6時～10時

英霊及び殉職自衛隊員の合同参拝

宮崎県護国神社及び神宮会館

23・11・3

ソ聯強制抑留戦没者伊良湖岬慰靈碑奉賛会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

23・8・8

8時～15時

宮崎県護国神社慰靈祭

宮崎県護国神社及び神宮会館

23・11・3

ソ聯抑留犠牲者鎮魂慰靈祭

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

23・12・11

11時～10時

殉職自衛官慰靈祭

宮崎県護国神社及び神宮会館

23・11・3

全国海洋戦没者伊良湖岬慰靈碑追悼式

慰靈碑前

24・3・12

12時～11時

川南護国神社慰靈祭(協賛)

川南護国神社

23・11・3

慰靈碑追悼式

慰靈碑前

23・8・8

8時～10時

宮崎県護国神社奉祝祭(協賛)

宮崎県護国神社陸軍記念日慰靈祭(協賛)

23・11・3

ビルマ方面戦没者慰靈祭

靖國神社

23・5・5

5時～10時

姫路護国神社春季慰靈祭

姫路護国神社

23・9・3

ミャンマー戦跡慰靈巡拝団派遣

靖國神社

23・8・8

8時～10時

戦没者追悼慰靈祭

陸軍墓地

23・9・3

ヤンゴン日本人墓地慰靈祭

靖國神社

23・11・11

11時～2時

田中静老陸軍大将顕彰碑参拝

同殉職碑

23・9・3

サガイーンヒル慰靈祭

靖國神社

23・11・11

11時～2時

姫路護国神社秋季慰靈祭

姫路護国神社

23・9・11

シベリア戦没者・年次慰靈祭

ハバロフスク市・シベリア平和慰靈公園

23・11・10

10時～4時

山口県護国神社春季例大祭

靖國神社

23・8・15

追悼式

ソロモン平和慰靈公園

23・11・10

10時～3時

山口県護国神社秋季例大祭

靖國神社

23・8・15

久留米市戦没者慰靈祭

久留米市忠魂塔

23・5・17

17時～11時

陸士五十七期同期生会

靖國神社

23・8・15

第19回戦没者慰靈平和祈念祭

久留米市忠魂塔

23・11・8

8時～14時

靖國神社慰靈祭

善福寺法要

杉並区・善福寺